

# 「県民力を高める絆づくり協創プロジェクト」 第4回推進会議の概要について

「県民力を高める絆づくり協創プロジェクト」の第4回推進会議を平成25年3月21日（木）に開催しました。

第4回推進会議には、7名の全委員にご出席いただくとともに、会議の進行を補助するファシリテーターとして特定非営利活動法人Mブリッジ理事長の米山 哲司氏にご出席いただきました。

なお、第4回推進会議の概要は、以下のとおりです。

## 「県民力を高める絆づくり協創プロジェクト」委員及びファシリテーター

※敬称略、50音順、カッコ書は役職

川北 輝（特定非営利活動法人津市 NPO  
サポートセンター理事長）

小堀 正一（三重県視覚障害者協会会員）

高橋 幸照（水土里ネット立梅用水事務局長）

増田 正人（公益社団法人みえ犯罪被害者総合支援センター専務理事）

舛本 大輔（国立大学法人三重大学大学院教育学研究科特別支援教育専攻2年）

宮本 倫明（「美し国おこし・三重」総合プロデューサー）

和田 京子（特定非営利活動法人伊賀の伝丸代表理事

＜ファシリテーター＞

米山 哲司（特定非営利活動法人Mブリッジ理事長）

### ＜推進会議の進行概要＞

会議の大まかな進行は以下のとおり

開会 13:30

戦略企画部部長あいさつ

24年度推進会議の振り返り

プロジェクトの進捗状況に対する意見交換

- ・ プロジェクトの進捗状況等の説明
- ・ 委員からご意見いただきたい点
- ・ 委員間で意見交換

「学生、若者を巻き込むには」について意見交換

閉会 16:00

（戦略企画部部長あいさつ）

山口和夫戦略企画部長から、今回の会議での目的等について説明いたしました。

（推進会議の振り返り）

ファシリテーターの米山さんから平成24年度に開催した3回の推進会議の概要を説明いただきました。

（プロジェクトの進捗状況等についての意見交換）

プロジェクトの平成24年度実績及び平成25年度事業概要を各課から説明しました。

その後、委員からご意見をいただきたい点について関係課から説明し、米山さんの司会により委員間で意見交換を行いました。

各課から出された質問等に対し、日頃の活動を通じてのご意見や提案を各委員からいただきました。



### 委員からの主な意見

- (1) 本プロジェクトの各事業において行政に期待することについて

#### 【主な意見】

- ・コーディネーターの役割を担う人材の派遣、ノウハウの伝承、人材の発掘をしてほしい。
- ・移住、就農支援への対応など包括的な相談体制の整備が必要。
- ・事業を実施した結果段階での評価だけでなく、事業の途中段階で行政が評価し、当該評価をフィードバックするとともに、アドバイスすれば、団体のスキル、ノウハウ向上につながる。
- ・事務が苦手な団体が多いので、県職員が退職後に事務の取りまとめなどで地域貢献して欲しい。

- (2) 委員が関係する事業で農村に携わってみたいことについて

#### 【主な意見】

- ・学生が、農地で自ら栽培したものを販売まで行う。

- ・NPOを通じて外国人に田植え、稲刈り等のイベントの周知。

- ・就農支援、人材確保を目標に掲げる受入体制づくり。

- (3) 若い世代をユニバーサルデザイン（以下「UD」という。）の活動に引き込むことについて

#### 【主な意見】

- ・「UDとは何か？」、「UDが生まれたことで何が変わったか？」、「UDに関わるとどうなるのか？」をもっと明確にし、学校などと連携してはどうか。

- ・大学の専門科（例：特別支援教育コース、建築科）と連携を行う。

- (4) UDに取り組む団体のネットワーク化、自立的な啓発活動につなげていくことについて

#### 【主な意見】

- ・「美し国おこし・三重」のパートナーグループで「UD」をテーマに多様な団体を集め、交流会を開催する。
- ・UDアドバイザーの数を増やさなくても、今の人をスキルアップすることで活動を活性化させていくことが必要。

- (5) 「美し国おこし・三重」の取組終了後、地域づくりのグループに対する、県の役割として、どこまでの範囲で、どのような支援が必要か。

#### 【主な意見】

- ・NPOなど中間支援の専門家の強化。
- ・活動状況の情報収集と情報発信。グループの活動報告・発表会の実施。
- ・26年の終了時まで自立し、モデルとな

るパートナーグループを表彰するなど、広く伝えてはどうか。

(6)「美し国おこし・三重」の取組終了後の県の組織体制はどうすべきか。

【主な意見】

- ・NPOを担当する県の部署と、NPOや市民活動を担当する市町の部署とが連携していく。

(7)「協創の三重づくり」に向け「まちづくり」に参加する人材の裾野の拡大について

【主な意見】

- ・「まちづくり」は、地域によって内容が異なる。どの地域での「まちづくり」かを考える必要がある。
- ・活動することで、やりがいや楽しいと感じてもらえることが必要。また、参加者のスキルにつながるよう支援することが必要。

(共通課題についての意見交換)

多くの事業で学生・若者と取り組む事業を展開しているため、「学生・若者を巻き込むには」について、意見交換を行いました。

【主な意見】

- ・情報の受信については、大学からの一斉メールを見る人は少ない。
- ・大学の先生からの紹介が、きっかけとしては、大事である。そのため、大学や先生の理解が必要だ。
- ・地域の情報と学生とをつなげるマッチングが重要。そのためには、活動内容を分かりやすく伝えていくことが必要だ。

- ・行政や地域が、内容の詳細を決定した後で、学生が活動に参画するよりも、学生が活動する過程でアイデアを出し、決めていけることが必要。

- ・NPOに興味を持ってもらうには、インターンシップなどを通じて、学生に体験してもらうことが重要であるが、三重県では、インターンシップが弱い。三重県でもインターンの仕組みを真剣に考えてもいいのではないか。



平成25年度の開催予定

平成25年度は3回の開催を予定。

(開催スケジュール案)

第1回(6月~7月)

第2回(10月頃)

第3回(2月~3月)